

# 週報

令和 4 年 11 月 18 日

2022~2023年度 No.16

2022-23年度 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジェニファー E. ジョーンズ

## プログラム

S A A 有川 真史君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「我らの生業」

☆四つのテスト斉唱

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「職業奉仕セミナー報告」

張本 民雄君

☆点 鐘

現在会員					30名					前々回の欠席者(10/28)					4名	
本 日	出席	19名	欠席	5名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	3名	出席率						79.17%	
	出席	21名	MU	0名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	2名	修正出席率						84.00%	
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
	本年度	75.55	81.16	83.53	77.58											
	前年度	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49	69.74	70.51	77.60			

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111  
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)  
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4  
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 才 津 喜 彦  
副 会 長 中 村 吉 廣  
幹 事 西 上 裕 一郎  
雑 誌 会 報 委 員 長 寺 澤 信 義

## 会長の時間

副会長 中村 吉廣君

皆様こんにちは。朝夕とすっかり寒くなりました。私は少々風邪気味です。コロナの8波、インフルエンザの流行と大変ですね。皆様ご自愛ください。

今日は久しぶりの会長の時間です。開幕直前ワールドカップサッカーカタール大会の話題です。日本代表はグループEですが、これまでの実績や実力を考えれば、欧州の強豪であるスペインとドイツが頭一つ抜けていると言っていい。ただ、7大会連続出場と着実に力をつけている日本と、大陸間プレーオフを勝ち抜いてきたコスタリカは、決して格下といえる相手ではなく、少しでも隙を見せれば、このグループは一気にどこが突破するかわからなくなる可能性を秘めている。この状況を裏付けているのが、ブラジルW杯でスペインが、ロシアW杯でドイツがグループステージ敗退に終わっていること。互いに高い評価を受けながら、初戦で敗戦を喫すると、最後まで勢いに乗れないまま大会を去ることになった。この過ちを再び繰り返してしまうのか、そこが焦点です。日本としては、初戦のドイツ戦で勝ち点を取ることが重要となる。相手を動揺させ、自分たちは強豪と戦える自信をつける。そうすれば、自ずと決勝トーナメント進出も見えてくる。

## 幹事報告

幹事 西上裕一郎君

### 【当クラブ関係】

#### ○第5回理事会の報告

- ・12月9日（金）18時30分から例会を開催し終了後、忘年会を開催。

場所：カンパーナホテル

内容は親睦委員会に一任

- ・年次総会を12月23日（金）12時30分からの例会終了後に開催。

内容は例年通り。

開催にあたって本日の例会終了後、次期次期会長指名委員会を開催。

- ・その他：物故会員北島博志さんの令夫人北島順子さんからの追悼寄付への感謝状について寄付の手続きが変更になり感謝状が送られてこなかったため、福江ロータリークラブにて

感謝状を作成する。

#### ○例会休会のお知らせ

- ・次週11月25日（金）例会休会

※クラブ定款第7条d項（1）祝日にあたる場合、またはその週に祝日が含まれる場合（次回例会は12月2日（金）となります）

### 【地区関係】

#### ○地区大会について

- ・11月26日（土）地区大会：佐賀市文化会館 福江RCからは14名出席予定。

### 【地区以外ロータリークラブ関係】

#### ○公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より

- ・ハイライトよねやま272号

#### ○国際ロータリー日本事務局 クラブ・地区支援室より

- ・コーディネーターNEWS2022年12月号

#### ○福江中央RCより

- ・週報第11号

## 委員会報告

## 出席報告

#### ◆11月18日（免除(a)欠席者）

中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君

#### ◆11月18日（免除(b)欠席者）

谷川 和啓君 佐々野邦久君 清瀧 誠司君

#### ◆11月18日欠席者

片山 雅文君 柳田 靖夫君 小畑 和男君

才津 喜彦君 森田 大輔君

## 親睦委員会

## スマイル報告

◇張本 民雄君 本日の卓話、ご清聴よろしくお願ひします。

◇中村 吉廣君 張本民雄さん、職業奉仕セミナー報告卓話よろしくお願ひします。

◇西上裕一郎君 ”

◇吉田 泰之君 ”

◇中村 栄治君 ”

◇戸田 博之君 ”

◇山下 実君 ”

◇山里 一郎君	〃
◇平村 和弘君	〃
◇松岡 孝博君	〃
◇神之浦文彦君	〃
◇山下 克己君	〃
◇坂井 成光君	〃
◇橋本 武敏君	〃
◇宮本 光藏君	〃
◇三村 剛孝君	〃
◇寺澤 信義君	〃
◇有川 真史君	〃
◇藤川 博士君	〃
合計	19,000円
通算合計	339,000円

## 部 内 卓 話

### 「職業奉仕セミナー報告」

張本 民雄君



皆様、こんにちは・・・職業奉仕委員会です。

本日は、先月の1日（土）に佐賀県神埼市の神埼中央公民館の講堂で執り行われました、国際ロータリー第2740地区2022～2023年度職業奉仕セミナーに、西上幹事と参加して参りましたので、そのご報告をさせていただきます。

実は、私は方向音痴・行き先音痴なので、行き帰りは全て幹事にお任せして、連れて行ってもらいました。そうしましたら、9月23日開業した西九州新幹線での行程を予約していただきました。お陰様で、早速、新幹線・かもめに乗ることができました。本当に幹事には感謝を申し上げます。

神埼市は五島人の私達にとって、とても行きにくく不便を感じました。又、昼食を食べようとしても食事処が駅周辺・会場周辺では見つからず、結局はコンビニでお弁当を買って、会場の控え室で食べるということになりました。

セミナーは、13時30分開会点鐘・講師紹介・第一部講演・第二部講演・ファシリテーションの解

説・ファシリテーション・ファシリテーション発表・講評・閉会点鐘と、17時まで、みっちり予定が組まれていました。

今回の講師は「第2800地区P Gの鈴木一作さん」で、山形県寒河江R C所属の眼科の先生でした。

先生は、当地区の駒井P Gと同期のガバナーということですが、2020年度はR Iの研修リーダーに任命され、ガバナーを指導する立場におられる方でした。又、今年度は「ロータリーの友委員会」の副委員長もされていて、次年度は委員長に就任予定とのこと。「ロータリーの友」をもっと魅力的な雑誌に変えたいと、早速、意気込みを語られておられました。

ご講演の演題は、「21世紀のロータリーと職業奉仕をどう考えるか？」と題され、

第一部：What is Rotary?

第二部：21世紀の職業奉仕

と分けて、90分のご講演をしていただきました。

さて、皆様方もご存知のことと思いますが、ロータリーにはバイブルといわれているものが幾つかあります。今回はその一つ「Guy Gundaker」の「A Talking Knowledge of Rotary」、日本語訳で「ロータリー通解」といわれていますが、この書物を元にして第一部を語られました。

この本は1916年に書かれていて、100年以上前のものですが、今でもロータリーの哲学を理解するための解説書として、多くのロータリアンに大切に読み継がれて来ております。

それでは、第一部のWhat is Rotary? ロータリーとは何か?について、お話をさせていただきます。

まず、Guy Gundakerが考えるロータリーの姿とは、ロータリークラブにおいては、「親睦と学びの場」であり、ロータリアンにおいては、「人間性の向上」であり、仕事においては、「事業と業界の発展向上」に繋げるべきものであり、世間においては、「世の中を良くしていく向上運動」であり、究極の目的は、「素晴らしい真のロータリアン」を育てることである。

そして、Guy Gundakerが考えるロータリーの根本とは、

- ①ロータリーは、自分自身を、事業を、業界を、そして、社会全体を向上させる運動である。
- ②ロータリーの究極の目的は、人間性の向上というロータリーでの成長を通じて、事業、業界、そして社会の向上に貢献する「素晴らしい真のロータリアン」を育てることが、クラブ会員の努めである。

③ロータリアンは、「親睦」と「学び」と「奉仕」に邁進することが重要である。

次に、Guy Gundakerが考えるロータリーでのロータリアンの活動とは、

①個人としての活動（これは、ロータリアンとしての職業上の努めです）

ロータリーが説く倫理基準と奉仕理念を、自己の事業や専門職務において実践すること

\*ロータリーバッジを着用し、高潔と信頼と奉仕の職業人としての証とすること

\*事業主として、全従業員に奉仕の心を植え付けること

②ロータリークラブにおける活動（これは、ロータリアンとしてのクラブでの努めです）

例会に出席し、会員同士の交流（懇談・意見交換・情報交換・討論）を通して、親睦と学びを深め合い、素晴らしい真のロータリアンに成長することによって、事業の向上、社会の発展に繋げていくこと

③業界における活動（これは、ロータリアンとしての業界での努めです）

ロータリーからの代表者（大使）として、高い職業倫理基準と奉仕理念を業界に広め、その業界をより良くしていくこと

④地域社会における活動（これは、ロータリアンとしての地域社会での努めです）

自分が住んでいる市や町に対する正しい知識、強い関心、そして、愛着を持ち、一人の市民として、地域社会、業界、そして所属する公共的な慈善団体において、積極的に価値ある奉仕をすること

次に、Guy Gundakerが考える素晴らしいロータリアンの姿とは、親睦と学びの場である例会に必ず出席し、ロータリーの歴史や伝統、価値や奉仕理念を学び、事業経営や社会に対する見識を究め、職業観や人生観を深め、奉仕の意欲を高め、奉仕の心を磨き、何よりロータリーの志を共にするもの同士の仲間意識を強め合いながら、自らの使命として、世の中に貢献していくのが真のロータリアンである。

次に、Guy Gundakerが考えるロータリーの親睦（Fellowship）とは、ロータリーではロータリアンが出会い、集う、全ての場を通じて、ロータリアン同士の交友を3つの段階に分けて考えます。

①“Acquaintance”・・・これは、知り合い程度の交友という意味です。

そして、次の段階が、

②“Friendship”・・・これは、親しいもの達同士の友情という意味になります。

そして、その上の段階が、

③“Fellowship”で、ロータリーの志を共にする仲間という意味になり、仲間意識を深めていくと同時に、ロータリーを学び合いながら“Fellowship”をさらに強め高め合っていくことによって、“親睦”という土壌が醸成されていきます。

要するに、ロータリーの親睦と学びが一体であればこそ、栄養に満ちた土壌となり、そのお陰でロータリーの苗木が立派に成長していくということです。

次に、Guy Gundakerが考えるロータリークラブの運営とは、ロータリークラブは、ロータリアンの「親睦・学び・成長・奉仕」を主体としたクラブ運営を行わなければなりません。

それによって、「素晴らしい真のロータリアン」が育ち、世の中が良くなり、ロータリーが発展していくのです。

つまり、ロータリーは、奉仕する人（素晴らしい真のロータリアン）を育てる団体である、ということです。

以上を踏まえて、第一部のWhat is Rotary?

ロータリーとは、

①親睦と学びを基盤として、

②立派なロータリアンを育てながら、

③価値ある奉仕を通じて、

社会に貢献する世界的な団体である。

というのが、模範の解答となります。

次に、セミナー本題の第二部：21世紀の職業奉仕についてお話を致します。

始めに、「職業奉仕」という名称と意味について。

ロータリーの歴史上、職業奉仕（Vocational Service）という名称が使われるようになったのは、1927年ベルギーのオステンド国際大会で「目標設定計画」が採択された時からといわれています。

それまでは一つだったロータリーの一般奉仕概念が、「職業奉仕」、「クラブ奉仕」、「社会奉仕」の3つに分類されました。

さらに、翌1928年の米国ミネアポリス大会で「国際奉仕」が追加され、2010年の規定審議会で「青少年奉仕」が5番目の奉仕部門として加わり、現在の五大奉仕となりました。

1931年、前述の「目標設定計画」に基づいてR Iが発行した「The Aims and Objects Plan」

によれば、“職業奉仕とは、職業分類による専門職務、商取引、その他の事業の場において、ロータリアン個人が行うべき「職業理念の実践」である。”と、明記されています。

言い換えれば、「ロータリアンとしての職業上の努め」となります。その上で、ロータリアンが行うべき職業奉仕の具体的な内容は、当時の「ロータリーの目的」に記されていた6項目のうちの4つ、それは、

- ①あらゆる有用な事業の基礎として奉仕の理想
- ②事業および専門職務の高度な道徳的水準
- ③すべての有用な職業の価値を認識し、ロータリアン各自が職業を社会に奉仕する機会として品位あらしめること
- ④全てのロータリアンは、その事業生活および社会生活に奉仕の理念を適用することを鼓吹、育成することである

と説明されているように、“職業奉仕は、ロータリーのプログラムの主要部分”であり、重要性が強調されています。

次に、「職業奉仕」の内容の変化（＝「職業を活かした社会貢献」の追加）について、2004年11月のR I理事会で、ロータリークラブの強化を目的としたCLP（クラブリーダーシッププラン）が決定されました。

さらにCLPの本格的導入に伴い、長年に亘って推奨ロータリークラブ細則に記載されていた、職業奉仕をはじめとした「委員会の任務」の記載が2007年からなくなりました。そして、標準ロータリークラブ定款に、四大奉仕部門が初めて明文化されました。

そこで注目して欲しいのは、2016年に改定された標準ロータリークラブ定款（第6条の2）の職業奉仕に関する記載です。それには新たに、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること」が追加されているのです。

要するに、R Iは1987年以降、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる奉仕」（職業を活かした社会貢献）を、職業奉仕活動の1つとして強く推進してきたということになります。

次に、「職業奉仕」の再定義（＝職業人としてのロータリアンの努め）について、1987年に「職業奉仕に関する声明」が出されるまでは、職業奉仕＝ロータリアンとしての職業上の努めであって、その努めの内容は「職業の場における奉仕の理念の実践」であり、範囲は自己の職業分類に限った

ものでした。

ところが1987年以降は、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる奉仕」（職業を活かした社会貢献）も職業奉仕となり、自己の職業分野以外の活動も含まれるようになりました。

ここで、第二部をまとめますと、1987年以降の「新しい職業奉仕の考え方」は、職業奉仕＝職業人としてのロータリアンの努めである、となります。

自己の職業分野だけでなく、職業人であるロータリアンだからこそできる、実践すべき努めが職業奉仕ということになります。

My Rotaryにある「奉仕部門」の職業奉仕についての説明にしても、以前は、“職業奉仕とは、ロータリアンが「各々の職業を通じて他の人々に奉仕をすること」、そして「高い道徳的水準を保つこと」を奨励するものであり、「ロータリアンとしての職業上の努め」という解釈でした。

しかし、現在のMy Rotaryには、“職業奉仕は、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てること。”と、記されており、明らかに「職業人としてのロータリアンの努め」になっているということになります。

90分に及ぶ長い講演でしたが、とっても解りやすく解説していただいたので、職業奉仕のこれまでのもやもやをすっきりと解消することができました。

終わって、休憩を挟んで、「ファシリテーション」がありました。ファシリテーションとは、参加者を小グループ（今回は12名前後を8つのグループ）に振り分けて、グループごとにリーダーを決めて、指定された議題に則ってフォーラムを行い、書記か代表の方が結果を皆の前で発表するというやり方です。議題はリーダーだけが知っていて、前もっての発表はありませんので、何を聞かれるか？ドキドキで、とっても緊張感のあるフォーラムでした。この方法は、3年程前からロータリークラブで取り入れられている会議のやり方で、セミナーはただ聞くだけの場ではなく、皆が参加して理解する場であるとする考え方です。前年度から、第2740地区にも「RLI委員会」（ロータリーリーダーシップ研究会）が設けられましたし、ファシリテーターのセミナーも開催されて、若いリーダーが沢山育っています。

当クラブでも西上幹事が昨年度、三回受講のセミナーの一回目を受講されたと伺っています。皆様方も積極的に受講していただいて、ファシリテ

ターとして、クラブ・・・そして地区のリーダーになっていただきたいと思います。

私達は閉会の17時過ぎまで、しっかりとセミナーを受けて、疲れ果てて、西上幹事と帰路につきました。

今回のセミナーで、ロータリーの職業奉仕の本質は変わりませんが、考え方を広げることによって、職業奉仕の幅が広がったと思いました。職業奉仕についての詳細は、一月の職業奉仕月間卓話にてさせていただきますので、楽しみにお待ち下さい。

本日はご静聴いただきまして、誠に有り難うございました。